

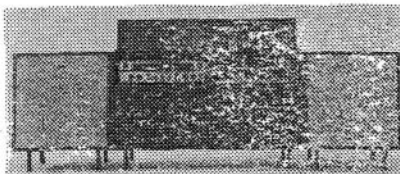
# 国内新製品紹介

## トリオの新製品 4種

### ●ステレオ・コンポーネント “ST-1000”

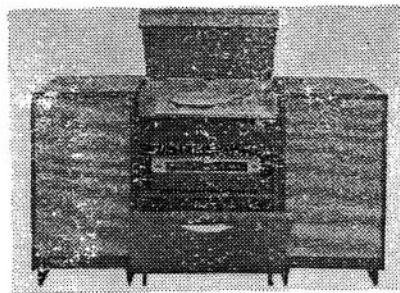
アンプ、プレーヤー、SP システムの組合わされた豪華コンソールである アンプ部 “W-50 型” は片方が FM と中波、もう一方が SW と中波となっており、各出力は 30 W (×2) である。感度は (S/N 20 dB のときの入力) AM: 40  $\mu$ V/1 Mc. SW: 70  $\mu$ V/7 Mc. FM: 2  $\mu$ V/94 Mc である。使用真空管は 7189×4 を含めて合計 21 球+1 石で、特殊回路としてヘテロフィルター、ランブル・フィルター、AFC、イコライザー直流点火、ステレオ・ヘッドホン付となっている。

プレーヤー・ユニット “ST-1000 P 型” はコンデンサー進相型 4 極ヒステリシス・シンクロナス・モーターを使い、ターンテーブルは 30 cm (アルミ合金鋳物)、S/N 45 dB 以上。ワウ 0.25% 以下、回転数は 4 スピードとなっている。PU は 30 cm 完全バランス型パイプ・アーム (4 端子プラグイン式) で、ムービング・コイル型カートリッジ (ダイヤ針)、針圧 2~3 gr のものを使っている。スピーカーシステム “ST-1000 S 型” は 30 cm ウーファーにスコーカー、トワイターを備え、クロスオーバー: 1000 c/s, 5000 c/s, 再生周波数帯は 40~18,000 c/s, 最大入力: 20 W となっている 外形寸法は幅 2310×高さ 650×奥行 490 (mm) で、重量は 90 kg 現金正価は 5 点ひと揃いで ¥199,000



### ●ステレオ・コンポーネント “ST-710”

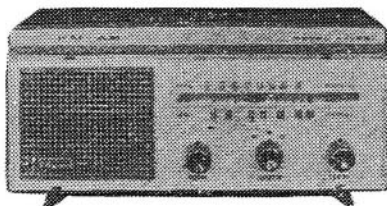
本機は 5 畳間を標準に設計されたステレオ・設置である アンプには同社の W-10 型 (7 W +7 W) を使い、プレーヤーは 1 スピード、シンクロナス・モーター使用、ターンテーブルは



25 cm, S/N 比は 30 dB 以上、回転ムラは 0.3% 以下、PU はパイプ・アーム型、ターンオーバー式、針圧: 5 gr である。SP システムは低音用 20.0 cm, 高音用 7 cm の 2 ウェイが左右にあり、最大許容入力 10 W 再生周波数は 45~16,500 c/s. キャビネットはバスレフ型である。全体の外形寸法は幅 1200×高さ 670×奥行 380 (mm) である。

### ●ホーム・ラジオ “AF-251”

FM つきの 3 バンド卓上型のラジオである。使用真空管は 17EW8, 12BE6, 12BA6×2, 12AV6, 30A5 にゲルダイ 1N-60×2, シリコン・ダイオード SM-150a 1 個となっていて、受信周波数は FM: 76~90 Mc, MW: 535~1605 kc, SW: 3.5~10 Mc である。最大感度は FM: 8  $\mu$ V/84 Mc (50 mW 出力), MW: 7  $\mu$ V/1 Mc, イメージ・レシオは同条件で、FM: 30 dB 以上, AM: 42 dB 以上となっている。出力は最大 1.5 W. 消費電力は 32 W. 外形寸法は幅 275×高さ 134×奥行 130 (mm) で、重量は 2.0 kg である。



### ●オール・バンド “VFO-1”

ハム用として、わが国最初の 6 m バンドを含んだオール・バンド (6 バンド) VFO である。

安定のよいクラップ発振回路でドリフトは 0.015% に押えられ、クリスタル校正回路により正確な目盛の校正ができる 出力インピーダンスはハイ、ローの両方を備えている 主な規格は、バンドは 80 m (3.5~4.0 Mc), 40 m (7.0~7.3 Mc), 20 m (14.0~14.35 Mc), 15 m (21.0~21.45 Mc), 10 m (28.0~29.7 Mc). 基本発振周波数はチャンネル 1 が 3.5~4.0 Mc, 2 が 3.5~3.65 Mc, 3 が 4.166~4.50 Mc となっている。最大出力は 2.5 W. 使用真空管は 6BA6×2, 6AQ5, VR150MT/QA2. 消費電力は 66 VA, 外形寸法は幅 200×高さ 195×奥行 255 (mm) である。

(東京都大田区調布千鳥町 74 Tel: 751-7121) トリオ K. K.



## ニートの新製品 2種

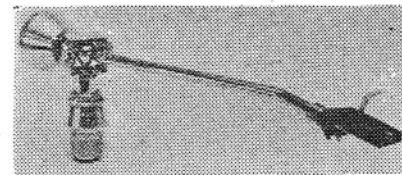
### ●プロ用 3 スピード・モーター “P-88H”

本格的のトランスクリプション型フォノモーターである。3 スピード型で速度切替のメカニズムに無理がなく、精密加工によるローラーや、ネオプレーン合成ゴムの使用により回転ムラは絶無である。モーターはコンデンサー進相の 4 極ヒステリシス型で、ターンテーブルは 2.5 kg (35 cm) のアルミ・ダイキャスト製で、S/N 比 50 dB 以上、ワウ: 0.2% 以下となっている。また本機はスプリングを使ってパネルを取付けた後、水平バランス・ノブを使ってパネル上面にある水準器を見ながらパネルの完全な水平度を出すことができる。総重量は 7.3 kg, 定価は ¥29,000 である。



### ●30 cm パイプ・アーム “GA-18”

完全ダイナミック・バランス型で、カートリッジを交換したとき、いちいちダイナミック・バランスをとりなおすのは大変な仕事であるが、これはバランス・ウェイトが 2 重になっていて、あらかじめバランスをとっておけば微調整用ウェイトで簡単にバランスがとれるようになっていいる。また、ラテラル・バランスもついているので、従来のバランス・アームでは得られなかった水平方向のバランスも簡単にとれる。コンセント式の 4 端子プラグイン・ヘッドで、市販のすべてのカートリッジは簡単、確実に交換ができる。アームの高さもアーム・スタンドについている回転アームによって調整できる

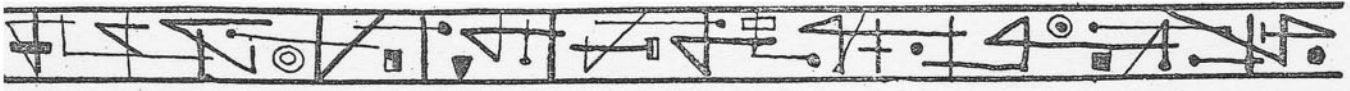


(東京都千代田区神田旅籠町 4ノ1) ニート音響 K. K.

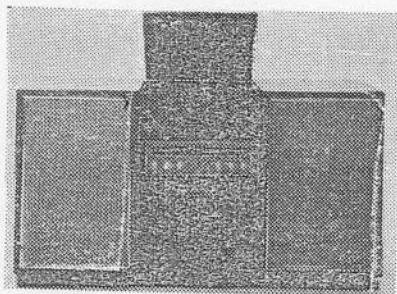
## バイオニアの新製品 3種

### ●セパレート・ステレオ “S-51”

ステレオ・アンプ、ステレオ・プレーヤー、スピーカー・システムの 3 点 1 組のステレオ装置である。ステレオ・アンプは 15 球+3 石で、

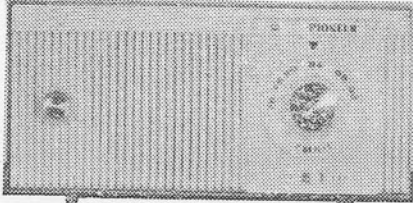


MW: 535~1605 kc が2チャンネルに, SW: 3.8~12 Mc, FM: 80~108 Mc が各1チャンネルである。FM マルチ用アダプター入力端子もついている。終段は6BQ5で、出力は最大7W+7Wである。無歪は4W+4W。最大消費電力は120VAとなっている。プレーヤーは4極ヒステリシスシンクロナス・モーターで、ターンテーブルは25cm、ピックアップはムービング・マグネット型カートリッジ(0.7ミル・ダイヤ針)がついており、再生周波数は20~20,000 c/sである。スピーカーは左右とも20cm ウーファーとホーン・トゥイーターの2ウエイで、再生周波数は50~16,000 c/sである。全体の外形寸法は幅1440×高さ780×奥行420(mm)である。現金正価は¥95,800。



●FM ラジオ “FMR-1”

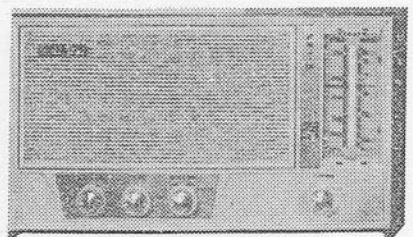
5球+3石のFM専用ラジオで。受信周波数は76~90 Mc。AFCもついている。スピーカーは10cmで、出力は1.5W。外形寸法は幅245×高さ130×奥行110(mm)である。現金正価は¥4,400。



●FM-AM ラジオ “FMX-1A”

これは8球+3石のFM、AM両用のラジオで、10×15cmの楕円型スピーカーがついている。出力は1.5Wで、外形寸法は幅310×高さ180×奥行155mmで、現金正価は¥14,900。

なお、本機にはベア用製品として“FMX-1B”があり、これは1Aと併用して、FMのマルチ放送がきけるようになっている。6球+2石で、10×15cmの楕円型スピーカーがついている。出力はやはり1.5W。外形寸法は幅270×高さ180×奥行155(mm)で、現金正価は¥8,900。

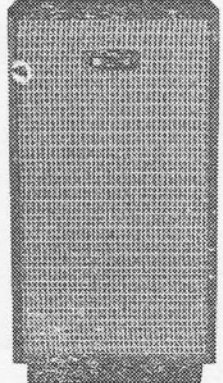


(東京都文京区首羽町6の5) パイオニア K.K.

コーラルの新製品2種

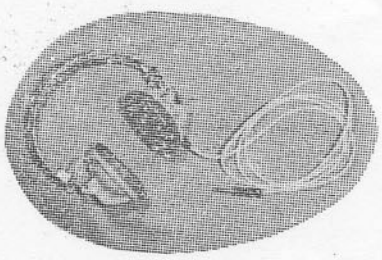
●リバーブ SP システム “RX-15”

2ウエイのHi-Fiスピーカー・システムに、さらに独立したリバーブ(残響)専用のスピーカーを組み合わせた独創的なスピーカー・システムである。主音源には20cm口径のウーファーと、6.5cmコーン・トゥイーターがあり、これに臨場感をプラスする残響専用の16cmスピーカーとリバーブ・ユニットつき残響用増幅器が組込まれている。残響の深みはリバーブ・コントロール操作により自由に加減できる。入力15W。入力インピーダンスは16Ω、再生周波数帯域は50~16,000 c/s、クロスオーバーは2500 c/s。リバーブ・アンプは12AV6, 32A-8にセレン整流器2個よりなり、ユニットはスプリング式マグネチック型である。残響時間は2.3sec(1000 c/s)、4.4sec(1000 c/s)、遅延時間は25~38 msec、ユニットの周波数特性は100~3,000 c/s。出力は3W。最大入力感度は350 mA、消費電力は15.5Wである。



●ステレオ用ヘッドホン “E-102”

これはダイナミック型で、ダイナミック・ユニットにはダンパーレスのコーン型スピーカーが使用されている。また振動板の周辺部は十分に可撓性に富ませてあり、共振点を下げて中音域の不快感を除去している。再生周波数範囲は25~15000 c/s、入力インピーダンスは16Ω、マッチング・インピーダンスは1~30Ω、プログラム・ソース入力0.25Wである。重量は430 gr。小売正価は¥3,200。

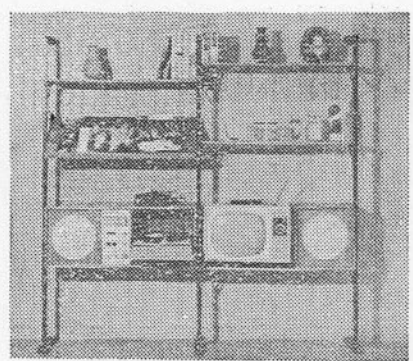


(東京都北区堀船町3の25) 福洋音響 K.K.

三洋のステレオ・アイディア号 “DC-800”

団地家庭や準洋式の居間などに適する、ステレオ装置と飾り棚の組合わせで、これに、テレビはもちろん人形、花瓶などを置くこともできるようになっている。ステレオ装置の本体はFMつきの3バンド・チューナーをもち、9球

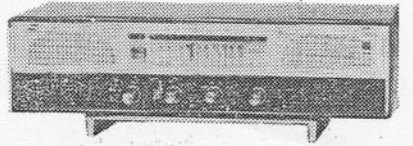
+4石できている。受信周波数帯は MW: 535~1605 kc, SW: 3.8~12.0 Mc, FM: 76~90 Mcで、出力は最大3.0+3.0W、無歪2.0+2.0W。クロストークは40dB(1000 c/s)。スピーカーは18cmダブルコーン・スピーカーで、一方はアンプ本体につき、他方は別個で棚のはしに置くようになっている。再生周波数は50~20,000 c/s、プレーヤーもアンプ本体についていて、4スピード、シンクロナス・モーター(リム・ドライブ)を使い、ターンテーブルは18cmである。PUはクリスタル・ステレオ(ダイヤ針つき)で、バランスド・アーム型、出力はST、LP、SPとも0.2V(500mm/1000 c/s)である。クロストークは17dB以上。現金正価は¥47,000。



(大阪府守口市京阪本通2の18) 三洋電機 K.K.

オンキヨーの3バンド・ラジオ “FM-820”

MW: 530~1605 kc, SW: 3.7~12.0 Mc, FM: 76~90 Mcの3バンド・ラジオである。出力は最大2W、無歪1.2W、スピーカーは8×12cm(ノンプレス・コーン)楕円型が2個使われている。現金正価は¥14,800。

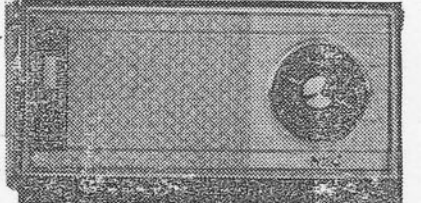


(大阪市旭区大宮西之町5の32) 大阪音響 K.K.

NECの新製品5種

●7石2バンド・ラジオ

7石のポータブル・ラジオであるが、終段にOTL方式を使って音質の向上をはかっている。受信周波数は535~1605 kcと3.9~12 Mcで、実用電界強度はいずれも150μV/m。最大出力は250mW。電源は単二×3(4.5V)で、

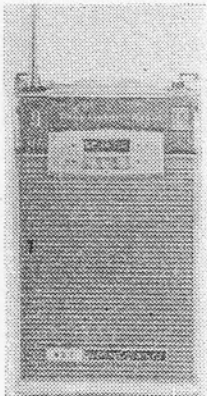




電池使用時間は約 250 時間、アンテナは丸型フェライトコア・アンテナを自蔵している。スピーカーは 7cm、外形寸法は 178×91×49mm で、重量は電池ともで 660gr。現金正価は ¥8,400。

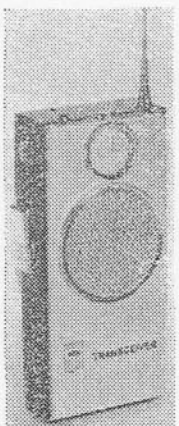
### ● 9石コンパクト FM ラジオ “NTF-901H”

小型のトランジスタ式ながら FM もきけるもので、受信周波数帯は AM: 535~1605kc と FM: 76~90Mc で、短波はついていないトランジスタ 9 個、ダイオード 4 個、サーミスター 2 個よりなり、出力段は OTL である。電池は単三 4 個直列の 6V。使用時間約 80 時間。アンテナは自蔵の平型フェライト・バー式と、9 段引伸し式ロッド・アンテナとである。スピーカーは 6.6cm。イヤホンも使える。外形寸法は 149×88×38(mm) で、重量は 500gr。現金正価は ¥15,200。



### ● C. B 用トランシーバー “NTR-802W”

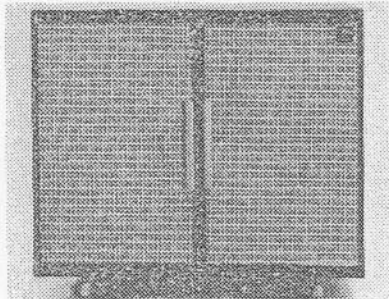
山行きやハイキングに便利な市民バンドのトランシーバーであるが、本機ではセットした時間に自動的にスイッチの入るような時計つきであるため、連絡の時間もビタリと合いミスが起らない。周波数は 27Mc でオバートン水晶発振。ブレストーク通信方式となっている。空中線電力は 0.00mW。アンテナは 1.45m のホイップ型。スピーカーは 5.7cm 丸型。電源は単三 8 個の 12V を使っていて、寿命は約 80 時間。トランジスタ 8 石に、ダイオード・サーミスター各 1 個である。外形寸法は幅 81×高さ 170×奥行 38(mm) で、重量は約 500gr。現金正価は 1 台 ¥16,400 で、それに免許申請手数料として ¥500 がつく。



### ● ステレオ・サウンド・コンパクト “NS-105A”

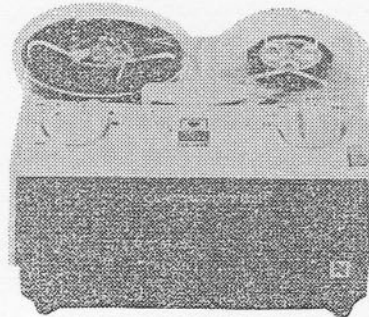
薄型のステレオ装置で、前面の扉がスピーカー・ボックスになっており、これを観音開きにすれば左右にスピーカーがひろがり、中央にチューナー・アンプ部、その下にレコード・プレーヤーが出てくるように組まれている。チューナーは FM, SW もきけるようになっており右が MW と FM, 左が MW と SW というものである。出力は最大 2W+2W。スピーカーは同社製の 16cm 極薄型を作っており、

再生周波数範囲は 50~10,000c/s である。プレーヤー・ユニットは 4 スピードのもので速度微調整もできる。スピーカーを閉じたときの外形寸法は幅 545×高さ 475×奥行 310(mm) で、重量は 13.5kg である。現金正価は ¥38,500。



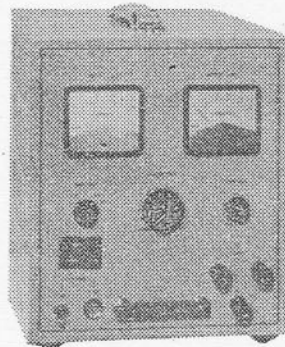
### ● 小型録音機 “マイコダ”

小型・軽量ながら大型なみの性能も持っている。ダブル・トラックで 9.5cm/秒と 4.75cm/秒の 2 スピードで 5 型リールまでかけられるから、最大往復で 2 時間の録音再生が可能である。スピーカーは 15×18cm 楕円型のが前向けに取付けられている。配線はプリント化されているため故障は少ない。また、外部スピーカーに接ぐこともできる。出力は最大 2.0W。外形寸法は幅 240×奥行 218×高さ 142(mm) で、重量は約 5kg である。現金正価は ¥18,900。



(大阪市北区梅田 2 第一生命ビル内)  
新日本電気 K. K.

### 星電機の直流安定化電源 “SDT 50-3”



を特に小さく設計し、小型軽量化をはかったものである。出力電圧は微調整ができ、過負荷保護回路を内蔵し、警報回路と遮断回路により制御し、トランジスタの破壊を防止している。出力端子はアースと絶縁されているので、任意

トランジスタを使用した直列型の直流安定化電源で、出力電圧は 1~50V までをレンジ分割なしに一操作で連続可変し、電圧変動、リップル等

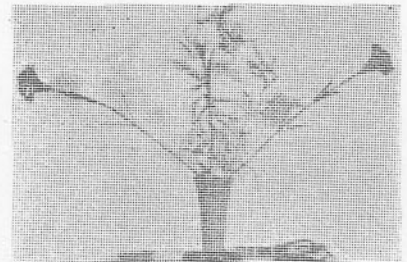
の極性の電圧を得ることができる。用途としてはトランジスタ回路の実験、研究用の電源、真空管のフィラメント用電源、その他いろいろである。主な規格を列記すると、出力電圧は DC 1~50V、電流は 0~30A、出力電圧変動はあらゆる出力に対して 10mV 以下、脈率率は 2mV(rms) 以下、内部抵抗は 0.01Ω 以下、電圧計は 0~25, 0~50V に切換可能。電流計は 0~1, 0~2, 0~3A に切換使用可能である。外形寸法は幅 250×高さ 290×奥行 360(mm) で、重量は 22kg である。

(川崎市小杉御殿町 2 の 29)

K. K. 星電機製作所

### 丸中電機のフラワー・アンテナ “SF-011”

丸中電機工業からフラワー・アンテナなるものが売り出された。造花の中の針金をエレメントとして備らくわけで、指向性にはやや難があるが、エレメントが沢山とれる(花とアスパラの数だけ)ので感度は非常によい。利得は 0~3dB、S. W. R は 1.5、インピーダンスは 300Ω、オール・チャンネル用といった仕様である。従来は輸出ばかりであったが、このほど国内販売をすることになった。国内卸値は ¥650。小売値は ¥1,000。

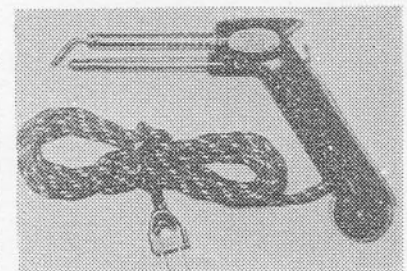


(大阪市東住吉区桑津 3 の 49)

丸中電機工業 K. K.

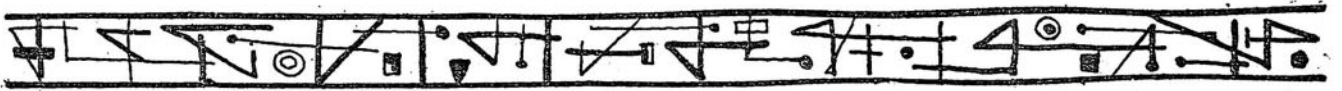
### シュアのソルダー・ペット “SF-1”

自動的にハンダが供給されるハンダ・ゴテで、片手で操作できるものである。ローラー(送り駒)の調節により自由に必要なハンダ量がゴテ先に送られる。ポビンに巻かれているハンダがなくなるまで連続して使用できる。またシュア独自の合金チップを使用しているので寿命も長くハンダのりもよい。スベアのハンダ・ポビンがあり、これを把手下部のツマミを引くことにより簡単に交換できる。



(東京都台東区西町 12 Tel: 831-3354, 6319)

K. K. 石崎電機製作所

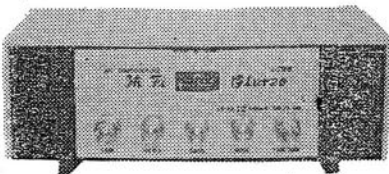


## 日幸の新製品 2 種

### ● TR ステレオ・アンプ

“TRM-50”

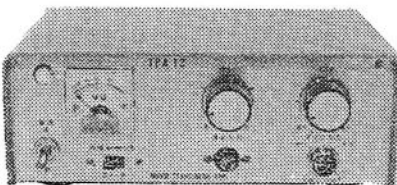
最大出力 50 W (25+25 W) という大出力のトランジスター・ステレオ・アンプである。出力段はドリフト・パワー・トランジスターを使用し、高域特性を良くし、また OTL 回路の採用により低域の歪をのぞき、ダンピング特性もよくなっている。またハム、雑音が少なく、消費電力は真空管式の 1/20~1/50 である。小型・軽量で故障の少ないのも特長である。周波数特性は 10~25000 c/s (±1 dB)、入力は Mag PU (3.5 mV)、出力インピーダンスは 4~16 Ω、外形寸法は 305×150×115 (mm) で、重量は 4 kg である。現金正価は ¥44,200。



### ● TR ユニバーサル・アンプ

“TPA-12”

最大出力 18 W をもつトランジスター・アンプで、自動車、モーターボート、船舶などに搭載されるほか、内蔵乾電池を使用して携帯用にも利用できる。専用の AC 電源を使えば電灯線で使うこともできる。また VU メーターもついている。入力はマイク回路のほか、プレーヤー、テープレコーダーなどの補助回路ももっている。電源は直流 12 V で、プラス接地でもマイナス接地でもそのまま使用できる。外形寸法は幅 225×高さ 85×奥行 150 (mm) で、重量は 2.8 kg である。価格は ¥18,000。

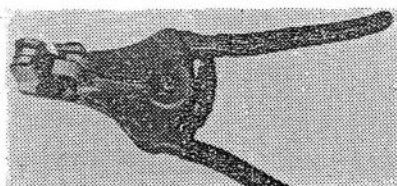


(世田谷区玉川奥沢町 1 の 285)

K. K. 日幸電機製作所

## 日本トランペットのワイヤー・ストリッパー

これは平行ビニール線を密着平行のまま芯線を傷つけずに外被をむきとれる便利な道具である。カッター寸法は 0.18 mm 20 芯と、0.18 mm 30 芯の 2 つがある。価格は ¥1000。



(大阪市東成区深江東 6 の 1)

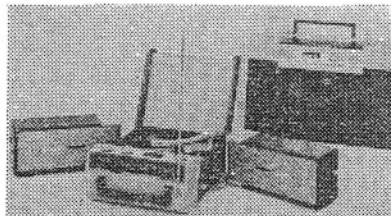
日本トランペット商事 K. K.

## クラウンの新製品 2 種

### ●ステレオ・ポータブル

“STP-60”

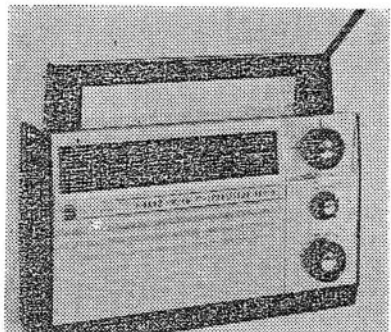
本機はポータブル型のステレオ電器であるが、FM もきける 2 バンド・チューナーもついている。つまり受信周波数帯域は MW: 535~1605 kc, FM: 76~90 Mc である。内容はトランジスター 16 個と、ダイオード 5 個よりなっている。写真の右後ろにあるのが、本体と 2 つのスピーカーケースをまとめた形である。出力は無歪で 600 mW×2, 最大 800 mW×2, スピーカーは 10.2×15.2 が左右に各 1 個となっている。プレーヤーは 3 スピードで特殊な DC モーターを使い、ピックアップはセラミック型ターンオーバー式のものである。ターンテーブルの直径は 16.5 cm アンテナは 11 段引伸ばしロッド・アンテナ。使用電源は単一×6 の 9 V で、AC アダプターを内蔵することも可能である。外形寸法は 146×510×342 (mm) で、重量は電池ともて 8 kg。現金正価は ¥33,600。



### ●TR 式 FM/AM ポータブル

“TRF-1200”

使用トランジスターは 12 石、ダイオード 4 石で、受信周波数帯域は MW: 535~1605 kc, SW: 1~12 Mc, FM: 76~90 Mc の 3 バンドとなっている。出力は無歪で 280 mW, 最大 400 mW。スピーカーは 8×14 cm 楕円型を使っている。アンテナは 7 段引伸ばしロッド・アンテナ。電源は単二×6 の 9 V で、AC アダプター・ジャックつき、外形寸法は 145×245×68 (mm) で、重量は 1.7 kg である。現金正価は ¥18,500。



(東京都台東区東黒門町 3)

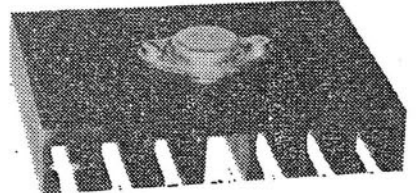
クラウン K. K.

## 相互のトランジスター放熱器

“T-2508”

相互電子の出したパワー・トランジスター用の放熱器である。熱伝導率のよい純アルミニウム (0.56 GGS) を使用し、熱伝導を合理的にし、空気其自然対流伝達がスムーズに行われる構造に作られているため普通の放熱板に対して半分

のスペースで済み、重量も軽い。熱抵抗は 2.5°C/W、ゲルマニウム・トランジスターで熱抵抗 1.2°C/W のものを取付け、周囲温度 40°C でコレクター損失 8 W まで許容できる。外形寸法は 100×76×20 mm で、全表面積は 410 cm<sup>2</sup> となっている。なお、この放熱器のうち A 型は主としてトランジスターに、B 型は整流素子や SCR、高出力ツェナー・ダイオードにも十分使用できる。



(東京都練馬区豊玉中 1 の 8)

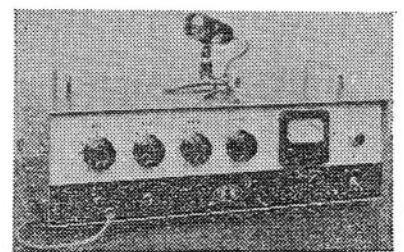
相互電子 K. K.

## マジマの新製品 2 種

### ●交直両用トランジスター・

アンプ “101”

12 V バッテリーでも AC100 V でもスイッチ切換えだけで、いずれにも使えるものである。トランジスターは 8 個で、出力は無歪 25 W, 最大 30 W となっている。出力端子は 4 Ω, 8 Ω, 16 Ω の他に 500 Ω, 1 kΩ がついている。使用トランペット・ホーンは 100 W のものは 1 本、50 W の場合 1~2 本、25 W の場合 6 本、15 W の場合 10 本、6.5 インチのスピーカーなら 30 個まで同時に使うことができる。入力はマイク回路が 1, PU 回路が 1 で、主音量調節回路つきで同時にミキシングができる。交直両用だから AC で使っていて停電にでもなったら、直ちにバッテリーに切換えることができる。消費電流は無信号時 0.5 A, 最大出力時 4 A である。外形寸法は幅 400×高さ 130×奥行 210 (mm) で、重量は 7.0 kg。定価はスタンド型マイクつき、送料もちて ¥54,000。



### ●多曲式ミュージカル・チャイム

現在の列車用チャイムは大体 1 曲式であるが、長距離列車ともなるとそればかりでは単調になるので、列車の発着時刻、電報、食堂車案内など用途に応じて使分けすることができる。選曲は押ボタン式で、曲は正しく最初から始まり、終曲と同時に自動的にストップ (その間 15 秒) するから、そこでマイクを入れるということになる。これは列車ばかりでなく他の用途にももちろん使える。チャイムの回転動力は単一 1 個で約 20 時間 (回転数にして 1200 回) となっている。外形寸法は幅 200×高さ 100×奥行 150 (mm) で、耐震性で、機械の下には吸着盤がついている。価格は ¥12,000。